

NEWS LETTER

No. 2000 JUNE

35



(財)国際労働財団

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-23-2 錦明ビル6F TEL.03-3288-4188 FAX.03-3288-4155
URL: <http://www.jilaf.or.jp> E-mail: jilaf@ubcnet.or.jp

2000年に 新しいスタート

5月26日に開かれた第30回理事会・評議員会で、清水春樹理事長が退任し、新たに得本輝人理事長が選任された。日本の労働運動を担うトップリーダーのひとりであり、国際活動の経験も豊かな新理事長を迎え、10周年を経過したJILAFも、次の新たな10年にむけて、新体制でスタートをきる。



新理事長を選任

2000年5月に開催したJILAFの理事会において、選任された。新年度の役員等の体制は次の通り。

理事長	得本輝人(新)	顧問	鷲尾悦也(連合会長)
副理事長	佐藤勝美(現)		斎藤邦彦(JIL理事長)
専務理事	山田陽一(現)		宇佐美忠信(JILAF元理事長)
常務理事	塚本雅勝(現)		清水春樹(JILAF前理事長)
	山口英一(現)	相談役	和泉孝(ICFTU-APRO前事務局長)



得本輝人理事長

理事長就任にあたって

国際労働財団(JILAF)

理事長 得本輝人

西暦2000年という新しいミレニアムの始まりの年に、清水前理事長に代わるJILAFの理事長に選任されました。今年はJILAFにとりましても、創立以来10年間の実績の上に、次の新しい歴史を築くスタートの年ともいえるわけであり、責任の重さを痛感しております。

世界は今、グローバルな市場経済体制の陰の面として、多くの開発途上国において失業、貧困、疾病などますます深刻化しています。そこで、来るべき21世紀においては、こうした南北問題への取り組みを人類最大の課題とすべきであり、先進国による途上国に対する開発協力活動の重要性もいっそう増大すると思料。

JILAFは、途上国における自由で民主的な労働運動の育成・強化への協力を主たる任務としておりますので、今後、こうした民主化支援を通じて、世界全体としての開発協力活動の重要な一翼を担う決意で、課せられた責務を着実に果たしていきたいと考えております。関係者の皆様のさらなるご理解とご協力を心からお願いいたします。

- 1941年 鹿児島県生まれ
- 1965年 京都大学経済学部卒業
- 同年 トヨタ自動車(株)入社
- 1969年 トヨタ労組執行委員
- 1976年 自動車総連事務局長
- 1986年 自動車総連会長
- 同年 金属労協副議長
- 1989年 連合副会長
- 1990年 金属労協議長

質の高い事業運営を図る

国際労働財団2000年度事業計画(概要)

1. 人物招聘

14チーム112名(アジア18カ国2組織・77名、アフリカ19カ国1組織・22名、中南米10カ国1組織13名)を招聘する。

アジア安全衛生研修チーム(ASEAN加盟諸国)14名 4月2日～7日

東南アジア(APRO、ベトナム各1、フィリピン、マレーシア、タイ各2)8名 6月15日～28日

中国A(女性)10名 6月19日～30日

アフリカ西部(AFRO、ベナン、ブルキナファソ、ガボン、中央アフリカ、コートジボワール、ニジェール、セネガル、トーゴ各1)9名 6月29日～7月12日

中南米(メキシコ、エルサルヴァドル、ドミニカ共和国、コスタリカ、ベネズエラ、エクアドル、ペルー各1)7名 7月13日～7月26日

アフリカ中部(AFRO、ガーナ、ケニア、タンザニア、ウガンダ各1)5名 7月27日～8月9日

南アジア(インド、パキスタン、バングラデシュ各2、ネパール1)7名 9月7日～9月20日

アフリカ南部(ボツワナ、ナミビア、スワジランド、ザンビア、ジンバブエ、モザンビーク各1、南アフリカ2)8名 9月21日～10月4日

アジア女性(APRO、フィリピン、マレーシア、ネパール各1、インド2、韓国3)9名 10月11日～10月24日

南米(ORIT、チリ、ウルグアイ各1、ブラジル3)6名 11月1日～11月14日

中東(パレスチナ、ヨルダン、エジプト、トルコ各2)8名 11月16日～11月29日

中国B10名 12月4日～12月15日

中央アジア・バルト(ウズベキスタン、ラトビ

ア、リトアニア、エストニア各1、モンゴル2)6名 2月1日～2月14日

韓国5名 2月15日～28日

2. 現地プロジェクト

(1) 対象は14カ国1地域18組織とする。マレーシアは支援対象からはずし援助する側にたつて現プロ活動に参加・協力してもらう。インドネシアはナショナルセンターの加盟に拘らず産別組織を2組織選び支援する。パキスタンPNFTUへの支援は当面見合わせる。診療所プロジェクトは支援を継続する。(2) 質的改善として、実行計画の立案はJILAFスタッフが現地を訪問し先方組織と協議しながらまとめる。支援対象組織、JILAF、連合などによるモニタリングの強化をはかる。現地プロジェクトで養成したトレーナーを積極的に活用し、経験交流・南南協力を促進する。出張時の安全対策及び危機管理方法を確立する(3) ネパール「学校プロジェクト」をベースにした「職業訓練センター」の設立について現地組織と検討を進め、新たな事業財源となり得るJICA「開発パートナー事業」の実現に努力する。(4) 他団体との連携を強化する。

3. 人材育成プログラム

(1) ICFTU - APRO、SILSと共催で、第9回指導者養成コースを開催する。南アジアからの参加者に奨学金を供与するとともに講師を派遣する。

(2) イスラエル・ヒスタドルト労働学院の実施するアフリカ地域労組指導者養成コースに対して奨学金を供与、講師派遣を行なう。

(3) 国際舞台で活躍できる人材育成を目指して第5回国際活動家養成コースを実施する。

4. セミナー・シンポジウムの開催

(1) ICFTU-APROと共催でアジア太平洋地域の組合リーダーを対象としたセミナーを実施する。

(2) 連合・ILOがアフリカで開催するワークショップに協力し、講師を派遣する。

(3) 「労働事情を聴く会」を開催し、招聘各国の労働事情を紹介する。

(4) IIRA国際労使関係協会第12回世界会議のスペシャルセミナーを開催する。

5. 国際交流チームの派遣

国際交流を深めるため、連合と協力してアジア地域に国際交流チームを派遣する。

6. 調査研究事業

(1) 「中国の雇用問題と労働組合の役割」「EU加盟を目指すハンガリー、ポーランドにおける雇用問題と労働組合の対応」をテーマに雇用調査を行う。

(2) アフリカ、中南米に労働事情調査団を派遣し、各国の社会・労働組合の状況について調査する。

(3) 各国のナショナルセンター、国際産業別組織に関する基礎データを収集・整理し情報提供する。

(4) 国際労働問題研究会を開催する。月に1回程度の開催で「ITSの開発協力活動」等がテーマ。

7. 国際労働組織の諸会議への参加

ICFTU、ICFTU - APRO等の諸会議に参加し協力活動の調整、情報収集を行う。

8. 広報出版活動

ニュースレターを年4回発行する。連合の出版物で随時活動を紹介する。インターネット・ホームページを充実させる。



5月初めに、鷲尾会長の率いる連合代表団に加わって、イスラエル、パレスチナ、ヨルダンを訪れた。これら各国の労働組合指導者、イスラエルのワイツマン大統領、アラファト大統領を始め各国政府要人との会合とともに、盛りだくさんな見学プログラムが準備されていた。

緊張感に満ちたゴラン高原の看視所、観光客のあふれたキブツ、風変わりな黒

小さな発見

装束のユダヤ教徒のいるエルサレムの街、死海の浮遊体験、ベドウィン遊牧民、ガザの難民キャンプの喧騒などなど、数えあげればきりが無い。一触即発の中東の真只中に、聖書とイスラムの世界が交じり合った経験に、代表団一同は大いなる興奮の日々を過ごしたのである。

そこで聞いた、小さな発見を一つ。これまでおよそ交流の無かったイスラエルと中国のコンタクトが始まった。そこで、イス

ラエルの組合幹部が最近プライベートに中国を訪問した話になった。私が、「食べ物が素晴らしかったでしょう」と中国通ぶって聞くと、「とんでもない!! 人生で最悪の食べ物だった」という返事が返ってきた。良く聞くとナットクした。

ぶた、かに、えび、などなど、世界に冠たる中国料理の誇る豪華メニューの素材が、ユダヤ教の戒律でダメなのだ。世界はサマザマだと改めて思い知った。

回 廊

国境を越えた友人をつくるJILAF



吉沢 弘久

国際労働財団プロジェクトアドバイザー
全日本自治体退職者会事務局次長

P R O F I L E

よしざわ ひろひさ

1936年生まれ。62年自治労本部書記局入職。75年から自治労中央執行委員として、組織局次長、企画室長、国際局長などを務める。90年よりPSI(国際公務労連)東京事務所事務局長、PSI・JC(同日本加盟組合協議会)事務局長として活躍。96年より国際労働財団プロジェクトアドバイザーを担う。98年、自治労およびPSI関係退任。2000年全日本自治体退職者会事務局次長となる。

「日本は天皇を中心にする神の国である」と森首相が語って問題になっています。私が小学校(国民学校といいましたが)の低学年であった戦争時代に聞かされていた考えです。アジア各国をはじめ世界の人々や日本の一般国民に大きな不幸をもたらした日中戦争や太平洋戦争を推進した軍国主義の基の思想です。首相が、この思想を語って平然としているとは、なんともひどいことです。天皇中心の神国思想は、他国(とくに貧困や社会開発の遅れに悩んでいる国)国民を低く見る、国際的な人種差別思想につながりかねません。

JILAFの事業は、労働運動の分野で、平和、人権、自由、平等、互惠協力という基本精神を基礎にした国際協力活動だと思えます。日本のODAをはじめとする国際協力活動はこれらの基本精神に基づくべきであり、多くのNGOの国際協力活動がその精神を基本にして行われ、開発途上国の社会開発の一助となってきました。JILAFは、招聘事業、現地プロジェ

クト、支援事業、委託調査事業、どれをとっても社会発展のための国際協力の実を挙げてきていると誇ることができるのではないのでしょうか。私は、設立当初から理事会に代理で出席したり、モンゴル現地プロジェクトに参加したり、招聘チームのアドバイザーを務めたり、委託調査事業に従事したりして、きわめて密接にJILAFと関係して来る幸運に恵まれました。その中で関係した各国の人たちと親しくなり、多くの心から友人と呼べる人を得られ、極めてありがたく貴重な財産をつくってきました。それぞれの組合や団体からJILAFに派遣されてきたり、JILAFに本籍を持っているスタッフの皆さんも、私と同じように他ではなかなかできない経験をしているのを見てきています。森喜朗さんも、JILAFの活動のような経験をして「世界の中の日本」と考えることができるようになってもらいたいものです。



「私のルーツはいったいどこ？」

幸運にもNTT労組より

JILAFの研修コースに参加させて頂き、このたび2度目の長期海外出張の機会を頂いた。場所はインドに引続き、はまっちゃたら大変、お腹当たっちゃたら



NTUCの事務所でスタッフと。

もっと大変な国「ネパール」。目的は当財団が推進する安全衛生セミナー「POSITIVE」のネパール導入であった。結論から言うとセミナーは大成功のうち幕を閉じた。現地のネパール労働組合会議(NTUC)や関係されたすべての方々に感謝の意を表したい。さて、今回の便りでは私・齋藤亮のルーツについて少々お話したい。実は私、学生の頃から「自分のルーツは果たして本当に日本人なのか？」と自問自答してきた。それを象徴するかのよう、海外では「香港は今どんな季節ですか?」「タイのモンスーンはどうです

か?」最終的には「あなたはどこの国の人ですか?」と聞かれる。不思議と私はそう聞かれたときに、何とも言えない満足感に駆られるが、理由は分からない。ネパールでも例外なく、ネパール語で話し掛けられ、現地の通訳さんからは「あなたは本当に日本人なの?」と疑いの目で見られた。確かにネパールを訪ねてみると、私のような顔立ちの人が街のあちこちを闊歩している。おのずと「私のルーツは実はネパールでは...」と思ってしまう程だ。次はシンガポールでの長期滞在が私を待っているが、今後も無国籍パワーで国際労働運動に注力していきたい。

JILAF研修生(NTT労組)齋藤 亮

ゼネスト直後の韓国から若手幹部を招聘

FKTU ,KCTU合同「韓国チーム」

10万人規模のゼネストや組合幹部の与党舎占拠などで揺れる韓国から、若手労働組合リーダー7名が招聘プログラムに参加し、日本の組合運動について研修した。JILAFの99年度招聘事業では15チーム・112名が招聘プログラムに参加したが、JILAFとしては今回の「韓国チーム」を年度最後の15番目のチームとして、事業を締めくくることができた。滞り期間は2月15日から28日までで、この間いくつかの労働講義、また労働省・連合・教育文化協会・社会経済生産性本部・JR新幹線中央司令室・連合鳥取・広島平和記念資料館・自治労・日教組・全自交・全国医療・公務員連絡会訪問などを通して、日本の労働運動、さらには日本そのものの理解につながれたと思う。

韓国にはFKTU（韓国労働組合総連盟）とKCTU（韓国民主労働総連盟）の2つのナショナルセンターがあり、ともにICFTU（国際自由労連）に加盟している。異なるナショナルセンターからの参加ではあるが、この「韓国チーム」では、それぞれの組織からの参加者が日本で一緒に研修し、行動し、相互交流することで、参加者レベルでのナショナルセンター間の理解も深まってきており、この事業の副次的効果のあらわれといえる。

このチームを含む招聘事業での訪問受入れをいただいている各組織や対応してくださっている方々に感謝するとともに、今後とも協力賜りたくお願いする次第である。



連合鳥取プログラムで家庭訪問



新幹線運転管理システムに見入る

JILAFカレンダー

(2000年4月～6月)



● 招聘

アジア安全衛生研修チーム(4月2日～4月7日)

東南アジアチーム(6月15日～6月28日)

中国A(女性)チーム(6月19日～6月30日)

● 現地プロジェクト

中国済南・南昌セミナー(4月10日～4月20日)

アフリカ南部キャパシティ・ビルディング・セミナー(4月21日～5月11日)

ネパールPOSITIVEセミナー(5月22日～6月4日)

● 各種会議

ICFTU第17回世界大会への参加(4月3日～4月7日)

ILO連合JILAF共催アフリカワークショップへの講師派遣(4月3日～4月6日)

第30回理事会・評議員会 及び 理事長就任披露パーティ(5月26日)

IIRA第12回世界会議スペシャルセミナーの開催(5月30日)

INSIDE OUT

インサイド・アウト

新しく着任したスタッフをご紹介したい。自動車総連より派遣された安藤章洋さん(写真)。昨年11月に退任された川村育太郎さんの後を引き継いで、支援事業部の支援事業課長を務めていただいている。出身はトヨタ自動車で、主に国際人事、工場人事を担当されており、組合役員歴

はないとのこと。川村さん同様、よろしく願います。



安藤 章洋